

辺野古新基地建設を許さない！

—安倍政権の戦争政策反対

山本吉三

① 沖縄で今起きていること

2日遅れで送られてくる『琉球新報』を読むたびに、わたしはいつも重い気持ちになる。本土の新聞ではほとんど取り上げられていないけれども、沖縄では毎日米軍機が住民の頭上を飛び、騒音と落下の危険性で生活が脅かされている。米軍は日米地位協定を盾にわがもの顔で立ち回り、市民グループや自治体が絶えず抗議の声を上げて、その声は米軍からも日本政府・沖縄防衛局からも無視され続けている。だが怒りとおそらくは無力感に包まれながらも、沖縄のたたかう人々は決してあきらめることなく声を上げ続けている。

つい最近もこんなニュースがあった。

- ・4月13日 北谷町でアメリカ海兵隊員が日本人女性を殺害して自殺
- ・4月5日 石井国交大臣は沖縄県が辺野古埋め立て承認を撤回したことについて、防衛局の要求に応じて取り消しの裁決
- ・4月3日 在沖米海兵隊は高江のヘリパット反対のために住民がN1ゲート前に設置していたテント・掲示物・簡易トイレなどを夜こっそり撤去
- ・3月31日 宮古島に新設された陸上自衛隊の駐屯地に、中距離多目的誘導弾と迫撃砲などが配備される弾薬庫が設けられることが判明
- ・3月25日 政府は辺野古新基地建設にむけて、新たな区域(N2)への土砂投入を開始などなど。

こんな理不尽と無法が沖縄の日常だ。このどれもがアメリカ軍の横暴と日本政府の有無を言わせぬ基地建設強行の姿勢があらわれている。

② 戦争準備を許すな！

安倍政権は辺野古新基地建設を暴力的に推し進めているばかりではない。社会保障費を削り取り、消費税を10月に10%に上げるかわら、トランプ政権のいいなりの値段で、アメリカ製の武器を大量に購

入(ステルス戦闘機F35A及びB-147機6、2兆円、イージス・アショア2基、6000億円など)し、米軍との合同軍事演習を繰り返している。そして沖縄本島を中心にして奄美大島・宮古島・石垣島・与那国島と中国を弧で囲むような形で、南西諸島に陸上自衛隊部隊の配備を進めている。本土での軍備増強もまた進められている。

これらの動きは何を意味するのか。最近日本と中国の融和ムードが醸し出されてはいる。けれどもわたしには中国・ロシア・朝鮮民主主義人民共和国を仮想敵に想定した、アメリカやオーストラリアとタッグを組んだ軍事的な包囲網づくりであり、共同軍事訓練であることがこの真実としか思えない。

わたしは「自衛隊が国を守るために必要だ」という意見にはくみしない。なぜなら戦争は常に「自国防衛」「国の利益を守る」という名において、時の為政者によって正当化され・起こされてきたからだ。「日本の兵隊は住民を守らなかった」という沖縄戦の体験者の言葉を痛みをもってうけとめるべきではないかと思う。

だからわたしは同時に軍拡競争をもたらすような、中国やロシアや朝鮮民主主義人民共和国の指導者たちの「アメリカの脅威」を理由とした軍備増強による対抗を是認することもできない。

③ 沖縄のたたかいとともに

わたしは2月24日の辺野古新基地建設の是非を問う県民投票直前に、辺野古のキャンプシュワブ前での座り込みに参加した。「戦争をさせない1000人委員会あいち」の呼びかけに応えてのものであったが、深い感慨を持たずにはいられなかった。

県民投票を前にしても、連日多くの県民や支援の仲間たちがキャンプシュワブ前に駆けつけ、リーダーの下で非暴力を貫いて黙々と座り込みを行っていた。一方では沖縄県警機動隊と多額の金で雇われた帝国警備のガードマン、他方では「土砂投入を許さないぞ」「新基地建設反対」「美ら海こわすな」を叫ぶわたしたち。わたしたちが機動隊にゴボウ抜きされた後、顔を合わせないようにして次々に基地